

平成28年 6 月28日

島田市議会議長 曾 根 嘉 明 様

島田市の医療を考える特別委員会  
委員長 清 水 唯 史

島田市の医療に関する調査研究について（報告）

本委員会は、調査した事件の結果について、委員会条例第36条の規定により別添のとおり報告します。

記

- 1 調査事件 島田市の地域医療の現状と医療確保のための課題と取り組みについての調査研究
- 2 調査結果 別紙報告書のとおり

島田市の医療に関する調査研究  
(島田市の医療を考える特別委員会 最終報告書)

## 1 調査経過（中間報告以降）

### (1) 全体会

第9回 平成28年6月20日 最終報告について

### (2) 視察調査

平成28年5月10日 静岡県掛川市健康福祉部

- ① 希望の丘を整備することとなった経緯
- ② 希望の丘の整備の内容について

## 2 調査の報告

当委員会は、島田市の地域医療の現状と島田市の医療確保のための課題と取り組みについての調査研究のため、平成27年6月29日に設置された。

平成28年3月25日の中間報告以降、委員会を1回、視察調査を1回実施した。調査概要は次のとおり。

### (1) 委員会の経過及び所見

#### 視察調査〈平成28年5月10日〉

平成28年5月10日、第8回の特別委員会で実施を提案した先進地視察として、掛川市で行っている「希望の丘」プランについて視察した。

掛川市は、平成28年4月1日現在、人口117,520人（昨年より約100人増）、高齢化率25.1%。「誰もが住みたくなるまち」、「希望が見えるまち」を目指し、「健康・子育て日本一」、「環境日本一」、「教育文化日本一」の3つの日本一のまちづくりに取り組んでいる。掛川市の健康や医療の特徴として全国初の自治体病院同士の統合である中東遠総合医療センターの建設、旧病院跡地を活用した医療・保健・福祉・介護・教育の中核ゾーンとしての希望の丘の整備、総合的な在宅支援の地域拠点として市内を5箇所に分け、地域健康福祉センターふくしあを配置し、多くの方が望む住み慣れた地域で安心して暮らせる体制づくりを行政だけでなくさまざまな専門職や地域と協力しながら整えている。

地域包括ケアシステムの構築において、3つの大きな柱として「総合支援体制の構築」「地域力の向上」「住民性の育成」の三つを合わせていくことによって、地域を支援するさまざまなものが活かされるような市の体制になると考え、地域住民が住み慣れた地域で安心して尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、医療や介護などの公的サービスのみならず、地域活動やボランティアによるサービスなどの多様な社会資本を住民が活用できるような地域の支援体制の構築を目指している。病院の統合、希望の丘プラン、地域健康医療支援センターふくしあの設置、高齢者施策、保健施策、福祉施策を合せながら行うよう計画している。

医療機関を整備し、さまざまなサービスを行ったとしても掛川市だけで全てを抱えられるものではないと考え、平成22年より地域医療再生計画として施設完結型医療から地域完結型医療への転換が図られ、二次医療圏である5市1町の各病院、各市町で連携をすることによって役割分担を行ってきた。中東遠の医療圏に関しては、5市1町が同じような機能の病院を持っていたが、平成21年までは、回復期のリハビリテーションがなく、藤枝市や浜松市に依存していた。この計画により急性期や回復期、療養等も含めて役割分担を図ることにより新たな連携体制ができた。

病院から退院後、在宅に戻ることが難しい方が多いため、近隣の病院、介護施設の活用をすることになるが医療機関だけで体制を整えていくことが難しいため、そのバックアップを行うために希望の丘があり、在宅や地域で総合的支援を行うために地域健康医療支援センターふくしあが存在する。

次に、希望の丘について説明を伺った。希望の丘は、中東遠総合医療センターの開院に伴い、閉院した掛川市立総合病院の跡地を活用し、「健康医療日本一のまち・掛川」を実現させることを目的として医療、保健、福祉、介護、教育に関する施設を一体的に整備する取り組みである。

実際に、この希望の丘には、静岡県立掛川特別支援学校（小・中・高）、医療法人による掛川東病院と介護老人保健施設。社会福祉法人による生活介護事業所、特別養護老人ホーム、認可保育所、社会福祉協議会による放課後等デイサービスセンター、そして中部ふくしあと小笠掛川急患診療所等が存在する。

それぞれが単体で事業を行っているだけではなく、希望の丘の中に共存しているため、ソフト事業による利用者間による交流、世代交流そして地域との交流、多職種が集まる資質向上の場と考えている。

今回、視察した希望の丘の中に配置されている地域健康医療支援センターふくしあは、第4回健康寿命をのばそう！アワード介護予防・高齢者生活支援分野行政部門において、厚生労働大臣優秀賞を受賞するなど、全国でも注目されている。

ふくしあは「住み慣れた地域で最後まで暮らせる」ように、医療、保健、福祉、介護を多職種連携により総合支援を行う地域拠点として配置されている。フロア内は、行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター、訪問看護ステーションが一つのフロアにすることで、連携し地域にあった支援を行い、家庭訪問や相談後も必要に応じてすぐにケース会議を行い、総合支援につないでいる。また、どこに連絡が入っても情報を共有しやすいというメリットがあった。

質疑に入り、委員より「この計画の構想から実現までの期間はどのくらいか」、「希望の丘に設置している施設の管理運営の形態はどのようになっているのか」、「訪問看護ステーションの運営はどこか」、「訪問看護ステーションの人材確保について」、「健康未病医学の取り組みについて」、「24時間の訪問看護について」、「特定の看護師の育成について」、「県外の業者が入られた理由について」、「エリア全体の整備経費に占める市と参加施設側の負担の割合について」等の質疑が出されたが内容は省略します。

今後展開される地域包括ケアシステムの構築においては、行政だけではなく医療、保健、福祉、介護を多職種連携、官民連携、そしてそこで住む市民の理解と協力が必要であることを痛感した。「ふくしあ」と同様の体制が島田で即時構築することは難しいであろうが、先進事例を学び、そこに近い体制の構築を執行当局が積極的に取り組む必要があると感じた。

## 第9回〈平成28年6月20日〉

平成28年6月20日の第9回の委員会においては、5月10日に行った掛川市の視察を終えての所見、県内公立病院へ依頼したアンケートの結果についての考察を行い、最終報告の内容について協議した。また視察調査資料とアンケート結果は全議員に配布し情報の共有を図るものとした。

### (1) 視察調査について

- ① 同一エリアに各種機能を集中させることにより、多職種連携が可能である。
- ② 高齢者と年少者の施設が隣接し、世代間交流を活発に実施できる。
- ③ 包括ケアシステムの各機能が同一フロアに存在し、ワンストップのサービスの提供が可能である。
- ④ 計画からエリア内の施設整備までが10年という短期間でスピード感を持って実施された。
- ⑤ 民間の活力を活用することにより整備に対する市の財政負担が軽減させている。

などの状況に対して所見が述べられた。

### (2) 「公立病院における医師等の人事に関するアンケート」について

- ① 医療従事者が離職する理由の分析が必要である。
- ② 勤務する病院を研修医が選択するための要素の検証が必要である。
- ③ 医師確保が医局や民間紹介会社などの派遣に依存せざるを得ず、苦慮している。
- ④ 遠隔地における看護師確保はその地域の生活環境が大きい。
- ⑤ 近隣市である藤枝市、焼津市の状況との比較できなく残念であった。

との意見が述べられた。

## 3 まとめ

島田市の医療を考える特別委員会ではこれまで9回の委員会と、1回の視察調査を実施しそのまとめを以下のとおり報告する。

(1) 「島田市地域医療を支援する会」から提出された「地域医療を守る条例」制定の要望に対して、この条例の目的が市民に医療に対しての深い理解を求めるとともに、行政と議会、医療機関も一体となり地域医療を守ろうというもので、その意義は大きく、執行当局と議会、地域医療を支援する会が一体となり、早急に条例を制定するよう提言書を取りまとめ平成28年3月25日議長に提出した。

(2) 今後国が進める地域包括ケアシステムに対して、医療現場の実情、執行当局の現状と体制についての調査の必要性から、医師会長を招聘し島田市の地域医療の現状について、医師不足、在宅医療、新市立島田市民病院の基本計画への所見などを中心に説明を受けた。また健康福祉部長、病院事務部長、長寿介護課長、健康づくり課長、病院経営企画課長及び病院総務課長の委員会への出席を求め、島田市の福祉体制と病院の人員体制などを質問し現状の把握に努めた。

島田市における現状把握と、掛川市の地域健康医療支援センターふくしあにおける視察調査、県内公立病院における医師等の人事アンケートの結果により、今後展開される地域包括ケアシステムの構築においては、行政だけでなく医療、保健、福祉、介護を多職種連携、官民連携、そしてそこで暮らす市民の理解と協力が必要である。掛川市の地域包括ケアシステムの構築と地域健康医療支援センターふくしあと同様な体制を即時構築することは島田市においては難しいことであろうが、先進事例に学び、そこに近い体制の構築を強いリーダーシップのもと、執行当局に早急に取り組むこと

を議会より強く要望する。また、今後の新市民病院建設の取組は市の医療のグランドデザインのもと進めていただきたい。